

第6章

Vision & Work Together!



60周年を迎えて



Vision & Work Together!

60周年のスローガンは「Vision and Work Together!」

私たち健育会グループは、様々な経験を通じて大きなものを得ることができたと考えています。それは、断つことができない強い結びつき＝「絆」です。震災をグループの支え合いで乗り切ったこともその一つです。私は日常業務の中でこの「絆」を更に「和」と言える次元まで高めていきたいと考えています。「和」は、もともと日本人が社会の中で培ってきた一体感や思いやりという意味で、職場における「和」とは、企業の理念、つまりMVVを理解し、その達成に向かって職員一人ひとりが自分の役割を果たし、互いに助

け合い協力し合うということです。「和」とは言い換えれば、チームワークです。「絆」から大きな「和」となり、グループ全体が一つのチームとなることができると考えています。

昨年、日本の医師で初めてノーベル賞を受賞した山中伸弥・京都大教授が、留学中に培った色々な経験からの信条である「Vision and Work hard」を基にして頑張ったという話をテレビで拝見し、感銘を受けました。「Vision and Work hard」とは、「一つの大きな目標にひたすら邁進すれば、自ずから道が開けてくる」と言った意味です。私

Vision

クライアントの心を豊かにする病院グループ。

Work

ビジョンをそれぞれの病院・施設の理念で実践していくこと。

Together

職員全員が一丸となって、ビジョン達成にむけて取り組んでいくこと。

「クライアントの心を豊かにする
病院グループ」の実現にむけて、
職員一丸となって
共に取り組んでいこう!



はこの話を伺いながら、健育会グループの皆さんに、私たちのVision「クライアントの心を豊かにする病院グループ」の実現にむけて、職員一丸となって共に取り組んでいこうという想いを込めて、「Vision and Work Together!」と呼びかけたいと考えました。

「Vision and Work Together!」のVisionとは、健育会グループ創立の原点、それは我々のビジョンである「クライアントの心を豊かにする病院グループ」のことを指し、Workとは、そのビジョンを更にそれぞれの「病院・施設の理念で実践し

ていくこと」を意味しています。Togetherとは、「和」のことで、職員全員が一丸となってチームとなり、これに取り組んでいこうという意味です。

この60周年を機会に、「Vision and Work Together!」のスローガンのもと、グループ内で「和」を拡げ、より一層光り輝く民間病院グループをめざして、これからも職員の皆さんと共に歩んでいきたいと思っています。

ディレクターからの「メッセージ」

Message from Directors

(2013年4月現在)



田中 眞

竹川病院 病院長
メディカルディレクター

健 育会グループ60周年おめでとうございます。
私が現在院長を務めています竹川病院は、健育会グループが昭和28年に当院の前身として初代・理事長が板橋区に設立した診療所から始まりました。当院は平成5年に、救急病院から当時地域の急速な高齢化に対応して都内初の療養病床に転換しました。その後平成19年に板橋区桜川に回復期リハビリテーションも行う総合リハビリテーション病院として新築移転しています。
私が当院に赴任してきて最初に持った印象は、健育会の方針のすばらしさでした。良いところを多々感じましたが、その中で特に強く心に残ったものが2つあります。1つは、医療と経営の責任を明確に分けた「ツートップ制」です。院長でも医師として勤務する場合、病院経営に専念する必要が無く患者さんの診療と医療の質の向上に専念できるということはとても優れたシステムだと思います。
もうひとつはチーム医療を強く実践させていることです。他職種が協働して患者さんのための診療を行う良さを実感しています。
健育会グループがこれからも益々日本の医療界を背負って立つグループとして発展していくことを期待しています。



間山 文博

竹川病院
マネージングディレクター

健 育会グループ60周年記念の年に、竹川病院に赴任していることを大変光栄に存じます。
私は全く異なる業種から16年前に入職しました。その当時の印象としては、理事長が自らの考え方を各病院・施設に浸透させるために力を注いでおられたことでした。1か所に大きな施設を構えていれば、理事長が常駐し考え方を浸透させやすいと思います。しかし健育会グループは施設が全国に分散しています。地域の特性というものもあるでしょう。そのような中、ビジョンブックという職員手帳のようなものを職員全員に配布しました。その中には健育会共通の目標である、「光り輝く民間病院グループをめざす」「クライアントの心を豊かにする病院グループをめざす」という目標や健育会グループの考え方を満載していました。前者は現在のMVVです。後者は現在「ケンイクペディア」としてホームページで公開されています。さらにそれを現場に浸透するために、私のようなマネージングディレクターという運営の責任者を各病院に派遣したのです。その当時医療業界では全くない斬新な発想におどろいたのを覚えています。
60周年のキーワードとして Vision & Work Together! が掲げられています。使命感を育成し、マンネリのない、各々の役割を理解し、お互い支え合うチームを理想として、竹川病院で実現するために職員とともに邁進していきたいと存じます。



田所 康之

熱川温泉病院 病院長
メディカルディレクター

「温 泉入ってけ」当時の事務長に半ば強制的に院内の大浴場に放り込まれたのは、脳神経外科学教室の医員派遣先視察に訪れた1995年秋のことであった。
翌1996年、私はこの熱川温泉病院のメディカルディレクター・病院長に就任した。さっそく私は、多くの委員会を立ち上げ、日常生活機能自立度 (FIM) やクリニカルインジケーター、インシデントレポートを導入し、研修会・学会へと職員の尻を叩いた。日本医療機能評価機構の認定を受けた。気が付くと、数年以上寝たきり全介助だった患者さんたちが目を開け、自ら食事を摂り、家族に手を引かれて帰っていった。驚いた。理学療法士3名言語聴覚士3名で始めたリハビリテーションは50名のスタッフを擁する一大部門となった。師長を中心にそれぞれの病棟は、患者さんの状態で病床のやり繰りや職員の援助を臨機応変にしていた。事務職員は、診療部門の支援を積極的に行うようになっていた。360°バラバラに思えた職員のベクトルは、健育会グループのビジョンや病院の理念の基、ひとつになった。ひとつの病院になった。
ふりむけば、燦々とそそぐ陽光、爽やかな潮風、豊かな温泉があった。組織として大きな力を発揮できるようになった病院と、大自然の力を合わせ、患者さんとその御家族、そして全ての職員が、今日を生きる喜びを謳歌し、明るい明日への希望をいただける、そんな熱川温泉病院を目指していきたいと思っている。

60 周年という節目の年に健育会グループの一員として在籍させていただいていることに感謝致します。そして、初代・理事長からの思いが引き継がれている熱川温泉病院に配属され微力ではありますが理念実現へ向け貢献させて貰っていることで仕事のやりがいを感じております。
私は、都内初の療養型への転換病院に興味を持ち平成7年8月に竹川病院 (板橋区東坂下) に入職致しました。理事長より療養型病院・医療と介護を有した在宅事業の経営のいろはを学ばせていただき、次のステップとして介護事業の複合施設であるケアポート板橋で措置制度の運営から介護保険制度の経営への切り替えを勉強させていただきました。その中でも、少子高齢社会の中で新たな切り口としての人材確保と医療・介護を通じたアジアとの連携としてフィリピンまで視察に行かしていただきEPA (経済連携協定) の枠組みで外国人看護師・介護士受入、国家試験合格へと繋げられたプロジェクトチームの一員として貢献できたことは、合格した当事者と同様に嬉しく思っております。
現在は、熱川温泉病院に配属させていただいており、グループ病院の中でも温泉病院の名前があるのは当院だけです。開設当初からの思いを受け継ぎ原点に戻り伝統を継続できる力になり健育会グループの和を大切に、グループの発展に寄与したいと思っております。



田地 英生

熱川温泉病院
マネージングディレクター

ディレクターからの「メッセージ」

Message from Directors

(2013年4月現在)



仲田 和正

西伊豆病院 病院長
メディカルディレクター

僻 地でいかに優秀な医師を全国から集めるか、20年以上かかって漸く今の方法に辿りつくことができました。1つは、皆で勉強し続ける組織とすること、そして価値ある情報を全国に発信し続けることの2つです。現在、週6回の勉強会を通じて毎日滝のように新しい情報に接し、またNEJMやthe Lancetの総説の要約を全国のメーリングリストに出すことにより「西伊豆病院」を全国の医師に覚えて頂くことに努めております。4人の研修医も来るようになり必然的に皆が勉強せざるを得ない状態となつてうまく学習サイクルが回りだしたと感じています。

他の病院に比し健育会グループの特に優れていると思うのはmanaging directorとmedical directorを独立させることによりmanaging directorは経営に、medical directorは医療の質に専念できる点です。また初期からの医療機能評価認定取得、TQM大会開催など常に未来を見据えながら適切に手を打っていく点も素晴らしいと感じています。また、頻回に開催される看護研究会、リハビリ研究会などによりノウハウを病院間で共有できる点も大変ありがたいです。

吉田松陰の飛耳長目、即ちアンテナを高くして情報を集め発信し緊張感を持って今後も病院を運営していきたいと思っております。

大 震災の時は、グループの皆様より暖かいご支援を受け、有難うございました。職員一同厚く御礼を申し上げます。

あの震災の時、石巻港湾病院は開院20周年を迎え、そして老健施設「しおん」が開所する予定でした。無残にもその夢は頓挫しましたが今は立派に蘇っています。健育会グループ60周年の中で石巻港湾病院は後半の3分の1、私はその内の7年という経験をさせてもらっています。健育会グループの医療、福祉への考え方、それに伴う病院の経営の仕方等、いろいろ考えさせられました。職員のスキルアップをどう図るべきか、これは技術だけのことではなく、病院の理念に対する心構えも含まれます。

さて震災後、石巻地方の医療情勢は大きく変わりました。当院はただ単なる老人病院から、慢性期病院へ、そして急性期病院から繋がる石巻地方になくはない病院へと脱皮しつつあります。未だ落ち着いた社会の中で、病院を取り囲む人々が心豊かに生活できることが病院の目標です。新病院になっても職員の心は一つであり、周りから選ばれる病院でありたいものです。



石田 秀一

石巻港湾病院 病院長
メディカルディレクター



橋口 猛志

西伊豆病院
マネージングディレクター

ダ ループの一員として60周年の節目を迎えられることを光榮に存じます。西伊豆病院では、平成元年の開院以来、地域で唯一の2次救急施設としての役割を担ってきました。現在当院の医療圏は高齢化率が既に4割を超えており、その主たる医療ニーズも、急性期医療から在宅療養支援へ変遷することが想定されます。「光輝く民間病院」として、その変遷を先取りすることが当院の喫緊の課題です。在宅療養支援で必要とされるのは、当グループが「質の高い医療」と同義に位置付ける「チーム医療」であり、さまざまな職種が患者さんを中心にチームの一員として連携していく取り組みです。病院の中だけの視点や特定の専門職の考え方に囚われることなく、患者さんと関わりを持つ皆さんと常日頃から問題意識を共有し、その解決に向けた活動を行う仕組みを作る必要があります。こうした取り組みに、情熱あふれる職員と一緒に携わることに、私自身もマネージングディレクターとして大きなやりがいを感じています。

5年後には、質の高い医療、介護を提供する仕組み作りを通じて地域の活性化に寄与した病院として国内外にそのモデルを発信し、グループのMVVを体現したいと強く思います。

健 育会グループ創立60周年を迎え、益々拡大発展している健育会グループの一員として、この意義ある節目の年に居合わせた喜びは格別のものがあります。理事長の強い思いと強力なリーダーシップに感謝致します。

当石巻港湾病院も開設から22年を迎えます。外様の病院として地域に認められていくには、まず質の高い療養型病院を目指し、そして在宅部門への進出と、今ではこの地域になくはない病院として中核を担うまでになりました。

そして昨年老健施設「しおん」も開設し、これで入院から在宅まですべてに関わる体制が整いました。又この間、東日本大震災という未曾有の困難にも直面しましたが、民間の底力を発揮し公立病院が早々と閉鎖撤退を決める中、地域医療を支えるという強い使命感で患者さんの命を守り通したという輝かしい歴史も出来ました。

常に地域の患者さんを第一に考え大切にすることが健育会魂であり、健育会グループの病院の大切な役割だと実感しています。この60周年を一つの区切りとして、次の70周年に向けさらに一歩前進していくことを共に誓おうではありませんか。頑張りましょう。



西崎 正好

石巻港湾病院
マネージングディレクター

ディレクターからの「メッセージ」

Message from Directors

(2013年4月現在)



梶田 章

いわき湯本病院 病院長

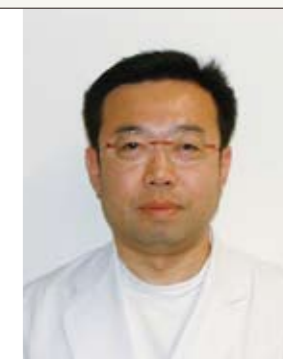
健 育会グループの母体である竹川病院開設から60周年、心からお祝いを申し上げます。あの日、2011年3月11日14時46分、日本を揺るがす東日本大震災が発生。震度6弱。4日3月14日48km先の福島第1原発で水素爆発。建物の被害、けが人もなくほっとしたのもつかの間、気がついてみたら、ここいわき湯本病院はライフラインの全面損壊に伴う地域孤立状況に加え、原発事故による放射能汚染の恐怖の2重災害にみまわれた真ん中にいた。街は走る車もなくゴースタウンと化した。病院は、情報遮断・物資供給遮断の中で、入院中の患者さんをどう守るかの日々。水供給ストップ、食材、医薬品供給遮断、150人の入院患者さんのおよそ90%は担送が必要な状況のまま取り残された。大きくなった健育会グループとはいえグループ内の2病院が震災のため取り残される状況は、グループにとってさぞや過酷な試練であったことと思う。この状況の中、トップ即断で支援チームが結成され、交通遮断の中グループ全組織を挙げて被災施設を物心両面から支えていただいたことは現場にとってどれほどの安心をいただいたことか。病院籠城生活のあの頃、だれ言うとなく職員の間で「グループにいてよかった」とのことば。心からの職員の感謝であった。「やればできる」。グループが益々強固に絆で結ばれミッションに立ち向かうことを心したい。



岡田 博人

いわき湯本病院
マネージングディレクター

健 育会グループ60周年を迎えるにあたり、私が、健育会グループに入職させていただいてから、早11年がたち、グループの約6分の1の期間に在籍させていただいていると思うと、感慨深いばかりです。私は、現在、いわき湯本病院での勤務を仰せつかっておりますが、ここでの勤務は、2回目になります。初回は、このいわき湯本病院が、健育会グループに参入された時でした。当時は、健育会グループに入ったばかりで、グループの病院という感じではございませんでした。しかし、今回、震災後の6月に、赴任して、まず感じたことは、職員の中に、グループの一員であるという意識が、定着しているということでした。それは、まさしく、グループに入ってから、理事長をはじめ、本部、現場でのディレクターなどの努力の賜物と、今回の震災での他のグループ病院からの支援による感謝と一体感を職員全員が、肌で感じた結果であるからだと感じました。いわき湯本病院の職員は、健育会のMVVとVision & Work Together!を実体験として経験した結果であると感じました。今後は、このグループとの一体感を、地域との一体感として、いわき湯本病院の役割を果たしていきたいと思っております。



星野 充明

花川病院 病院長
メディカルディレクター

医 療法人喬成会が健育会グループへ加入し5年が経ち、今年健育会グループが創立60周年を迎え、60年のうち5年という短い時間ではありますが、健育会グループの歴史の一部に加われたこと嬉しく思い、また60周年をお喜び申し上げます。喬成会には当院の他、老健や在宅診療を担当する事業所を有し、医療のみならず介護や看護などのサービスを縦割ではなく有効に行えるグループとして喬成会は「再び自宅で生活できるようになること」を目指して活動しております。ある時、脳梗塞を発症し、重度の麻痺の障害が発生した方が紹介されてきました。再び自宅で生活してもらいたいと職員が目標を共有し、リハビリテーションを行い、退院後のサービス調整を行い自宅へ帰られた方がいました。御本人や御家族に喜んでいただけたのはもちろん、御紹介して頂いた医療機関にも喜んでいただけましたし、それは我々職員の喜びとなりました。私たち職員は我々の施設・職員が共通の目標を持ち、それぞれの職分で役割を果たし最終的目標を達成し、地域の皆様に満足して頂けるように、これからも尽力していきたいと思っておりますので、今後ともご指導の程、宜しく願い申し上げます。



石川 学

花川病院
マネージングディレクター

私 は、平成8年石巻港湾病院で理学療法士として採用して頂き、健育会グループに入りました。当時、今ほど健育会グループ全体での研修など多くなかったと思いますが、リハビリテーション部では、竹川病院や熱川温泉病院のセラピストと勉強会を行う機会に恵まれ、グループの強みとして、大いに刺激を受けておりました。そのうち、TQM活動や接遇研修、チーム医療症例検討会、看護・リハビリ研究会などでグループ内研修が充実しましたが、私を含め他職員も手探り状態で、決して質が高いとは言えない内容であったと思います。それが今では、全国的な発表会に出しても引けをとらない内容で、年々質の向上が図られており、継続する力を感じずにはられません。Vision=長期目標ではあるけれど、長期目標を成し遂げるには、多くの短期目標を達成しなければなりません。今ではより多くの職員と数々の短期目標を達成し、「クライアントの心を豊かにする病院グループ、介護施設」の実現に向けて、職員一同一致団結し頑張っています。これも60年間継続して「目の前の患者さんを救う」という原点が受け継がれている賜物であると感じております。

ディレクターからの「メッセージ」

Message from Directors

(2013年4月現在)



藤巻 有久

石川島記念病院 病院長

健 育会グループ創立60周年おめでとうございます。
 当院は、平成24年4月より伝統ある健育会グループに加入させていただきました。以来、チーム医療症例検討会、看護リハビリ研究会、医師研修会などに参加させていただきスタッフ一同のモチベーションや向学心の向上に大変役に立っております。これらの研修会で学んだ知識を生かし各施設同様特徴ある病院として地域医療に取り組んでいきたいと考えております。
 来春には新病院の建設が予定され基礎工事が始まりました。職員一心を合わせ準備に取り掛かっております。
 今後も、健育会グループの一員として名に恥じないような病院にしていきたいと思っておりますのでどうぞご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



佐野 良一

石川島記念病院
マネージングディレクター

私 は平成元年入社なので今年で勤続25年目となります。
 入った当初はちょうど西伊豆病院が開院したときで、健育会グループ病院は3つ目でした。
 当時西伊豆地区には病院が無く開業医が6件で医療過疎地域でした。そんな所に病院が出来たのですからオープン当初は朝から外来患者さんが押し寄せてごった返し、朝受付して診察が夕方5時頃になる患者さんがいるほど大変な状況でした。そして、大概の外科的な手術は対応し、それまで手遅れになっていたような救急症例も救命できるなど地域での役割も明確で期待に応える病院として機能し、現在まで受け継いでいます。
 それから25年、グループは拡大し病院は7つとなりそれぞれの地域で期待される役割にきちんと応えています。これはMVV（ミッション、ビジョン、バリュー）がきちんと整備されてそれぞれの病院で働くスタッフに浸透し一丸となって役割を理解し実践できているからだと思えます。これからも健育会グループの発展に向けて頑張っていきたいと思えます。



健 育会グループの教育・研究にける熱意は大変なものです。グループの病院・施設・在宅拠点を合わせてのTQM活動や発表会、看護リハビリ研究会、チーム医療症例検討会等における労力の大きさ、そして発表内容の質の高さにはいつも感銘を受けております。それはグループ全体でMVVが浸透し、目標に向かって各病院や施設と、そこに帰属する各個人が目標に向かって「何を行うべきかを判っている」からです。
 私の所属する介護付有料老人ホームのライフケアガーデン熱川では様々なステージにあるご入居者の尊厳を大切に、一人ひとりと真正面に向き合い、それぞれに異なる輝きを提供することを目指しています。
 今後も更なるグループの発展をするために、原点の基盤を支えてまいります。



伊藤 日出夫

ライフケアガーデン 熱川
施設長

介 護施設へのニーズが多様化している中で、去年は食の基本である「食べる楽しみ」、「口から食べる尊厳」に着目し、「やわらか食」に取り組みました。ご家族と施設が一つの目標に向かって一体となり、食べる意欲を失っていたご入居者が「美味しい」と満面の笑顔で召し上がって下さった時のことは今でも鮮明に覚えています。「心豊かな生活環境を提供する」理念の下、多職種が専門性を活かして和となった実践だったと感じております。
 「日々精進」。まさに、人生の先輩であるご入居者の生活のお手伝いを通じて、私たちは様々なことを日々学んでいます。その小さな努力の和が大きな和となり、地域へ信頼と安心を提供する大きな希望になると信じ、今後とも日々の業務に励み、次の10年100年の発展に貢献できるよう邁進してまいります。



並木 乃輔

ライフケアガーデン 湘南
施設長

今 日に至るまで理事長始め諸先輩方の本当に弛まぬ努力があったものと思感謝しております。ありがとうございます。
 自分は健育会グループに異業種から入職させて頂いたのですが、異業種と医療・介護業界は想像以上に異なる点が多く、入職当初は戸惑いながら仕事をしていました。そんな中「クライアントの心を豊かにする病院グループ」と言う言葉は暗闇の海に浮かぶ灯台のように拠り所となっていました。MVVは多職種・多様な職員からなる健育会グループの職員の雑多な人種を結び付ける言葉のように感じます。
 日々の業務の中で、時には判断に迷う時がありますが、そういった時には、MVVに照らして間違っていないか?を判断基準としております。健育会グループが今後70年80年100年さらに発展するよう、微力ながら全力をつくしてまいりたいと思えます。



掛川 哲

ケアセンターけやき
センター長

ディレクターからの「メッセージ」

Message from Directors

(2013年4月現在)



花木 喜三好
介護老人保健施設 しおさい
事務長

施 設のある西伊豆地区は、高齢化率が静岡県の中で第2位、42%に達する高齢社会です。子供世代は地元で産業界がないため学校を卒業すると、都市圏に就職してそこに生活基盤を築いてしまい、地元には戻って来ません。年を取った老夫婦で生活しているのが現状です。それでも元気なうちはいいのですが、怪我や病気で自分の事が出来なくなってしまうと、すぐに今までの安定した生活は崩れ去ってしまいます。多くの世帯で大きな不安を抱えているのではないかと推察できます。

そんな不安に対し、私達健育会グループの介護施設のミッションである「活力のある高齢社会のサステナビリティを実現する」の基、地域の中の不安を安心に換えるべく、ご利用者が「輝きの一日」を享受できる介護施設を実現することで、将来に希望を持てる、活力ある社会の実現に貢献してまいりたいと思います。

東 日本大震災は、3ヶ月後の開所予定であった介護老人保健施設しおんにも大きな被害を残しました。しかし、多くの病院施設の復旧が進まぬ中、震災半年後に石巻港湾病院が再開、しおんの工事も始まり、地域の方々もスタッフも、この時ほど安心したことはなかったと振り返っています。スタッフの多くは、アルバイト等を続けしおんの再開を待ってくれました。

工事再開から半年、関係の方々のご協力もいただき平成24年4月オープン。竹川理事長より、しおんは復興のシンボルであり社会への希望、地域への貢献であるとお話をいただき、とても勇気づけられました。理事長のご英断と健育会グループの力、近隣や工事関係の方々、共に地域への貢献を決意したスタッフ、すべての方々の絆と和によって誕生したしおんに携わり、まさにMVVが実践されていること、健育会グループ60年の歴史と力に支えられていることを実感しています。



須田 潔
介護老人保健施設 しおん
事務長



小清水 一雄
介護老人福祉施設 ケアポート板橋
施設長

我 々は、高齢社会が急速に進む中、多様な介護・福祉サービスが求められています。このような事業環境の中で、活力のある高齢社会のサステナビリティの実現に向けて、ご利用者の尊厳を大切にしたい質の高いチームケアの提供・その人らしい生活の支援・地域の要となる多機能施設を施設理念とし、8事業を展開しています。

昨年は第2回介護甲子園にて423事業所の頂点、最優秀賞をいただくことができました。また、EPA介護福祉士に2名合格することもできました。これらは、様々なハードルにチャレンジし乗り越えた結果で、誇りとやりがい・勇気と自信・励みとなっています。ブランド化やモデル施設へ一歩近づけたと実感しています。

これからも、日本人職員とEPA職員が手を取り合い、共に学び、共に成長し、ご利用者・ご家族、地域の方々へ元気と安心・感動と希望、複合型多機能施設として地域貢献し支えていきます。

超 高齢社会という言葉が毎日のように暗いニュースとして各メディアから発信されている今日ではありますが、現場では、介護の仕事に明るいイメージを持ってやりがいを感じている職員も大勢います。平成24年に竹川理事長より介護事業のMVVが示され、組織内の意識と動きに変化が出ている事を実感しています。MVVには超高齢社会になっても希望のある持続可能な社会を実現することが示されており、そのために私たちがすべきことを示して頂いています。我々は地域で不安を抱えるご利用者に輝きの一日を感じてもらえる施設になることで、社会への希望へと繋げられます。それには多職種が一丸となって、常にご利用者の聞こえないニーズを探り、共に考え、共に悩み、共に努力していくことが必要であると考えています。今後、Visionであるクライアントの心を豊かにする介護施設の実現に向けて職員が一丸となれる介護事業所であることを約束し、私も一緒に励んでいきたいと思っています。



宮前 元樹
医療法人喬成会 在宅事業部
部長



中川 忠雄
ひまわり在宅事業部
部長

震 災直後の石巻でのサポート活動やいわき湯本病院、石巻ひまわり在宅事業部での2年間の仕事の中で実感したことは「健育会の病院や訪問事業がどれだけ地域の方々から大事に思われているか」でした。病院が流され壊れていても自分たちは決して患者さんから離れずに頑張ろうとする真摯な姿勢や、限られた訪問スタッフでご利用者が安心して自宅で過ごせるよう全力で取り組む姿を見て、震災の極限状態の中でも地域の方々から自分のことよりも大切に思っていたと考えると、地域の信頼関係は「人間の尊厳は平等であること」と「目の前で救いを求める患者さんの役に立ちたい」との思いを原点として築きあげてきた伝統と地域の医師、医療スタッフ、ご家族までもチーム医療の一員として地域全体の和を重んじる理念により築かれたものと考えます。私はこの2年間の貴重な経験を糧に輝かしい伝統に磨きをかけていく一助となるよう日々邁進していきたいと思っています。

ディレクターからの「メッセージ」

Message from Directors

(2013年4月現在)



山田 寿朗

ヘルスケアシステムズ
代表取締役副社長

健 育会グループは、原則を大切にしている組織です。組織や職員が行動するとき、決定をするときは、原則に立ち戻ります。その原則の根幹である経営理念が、MVVとして表わされています。ツートップ制などの経営ノウハウの蓄積に加えて、MVVが職員一人ひとりの心に浸透し行動原理として常に実践されているところが、私達の組織の強みであると思います。

「会社の寿命は30年」と言われ、繁栄を謳歌した企業も、多くは、社会構造の変化や技術革命の流れの中で表舞台から退場していきます。健育会グループが、60年の間の社会や医療制度の変遷、新しい病院・施設の加入による組織の拡大と融合、そして東日本大震災という未曾有の事態をも乗り越えてきたのは、職員の行動がMVVを軸にブレず、組織として変化に即応して、時代に求められる医療・介護システムを提供する存在であったからだと考えます。

私達は、これからも、質の高い医療・介護と効率性を共存させた経営システムの中で、理事長賞・ミラクル賞・キラキラ介護賞に代表されるような沢山の満足や笑顔を作り出して、患者さん・ご入居者の心豊かな人生を支援していきます。そして、そのような病院・介護施設の拡大を通して、迫りつつある超高齢社会の中で地域医療・介護を支える一翼を担うことが、私達の使命と考えています。

健 育会グループに入職してから10年が経過し、創立60周年を迎える記念すべき節目の年を健育会グループの職員として迎えることを大変光栄に思います。

健育会グループは、竹川理事長が考案したツートップシステムをはじめとした他に類をみない、革新的なマネジメントスタイルで病院・介護施設を運営しています。

近年はグループに加わる仲間も増え、東日本大震災の危機の際にはグループの絆で乗り切り、ハーバードビジネススクールのケーススタディーに取り上げられる等外部からも高い評価を得ております。そのような榮譽あるグループの一員であることを誇りに感じております。

少子高齢が進み、多くの課題を抱える日本の医療を支えていくには、新しい価値観で変化に対応できる仕組みが必要です。そういった意味において、スタンダードよりも一歩先を目指している健育会グループの発展こそが、日本の医療を支えることにつながると確信しております。介護事業においては、健育会グループの発展が日本だけでなく海外の高齢化問題にも貢献できると考えます。

これまで60年の間に培われた健育会グループの歴史と伝統を受け継ぎながら、これから10年20年先の新しい歴史を作るため、そして「光り輝く民間病院グループ」実現のため全力を尽くしてまいります。



渡部 泰寿

ヘルスケアシステムズ
部長

健 育会グループの創立60周年という大きな節目を数多くの仲間と共に祝いできることに大きな喜びを感じております。

私は大学を卒業し15年間都市銀行の営業として勤務しておりました。当時は資金融資やリスクヘッジの提案の中で企業経営者と「経営とはどうあるべきか?」ということと共に考えてきたつもりになっていました。しかし10年前当社に転職した際、「MVVの実践なくして企業経営は成り立たない」という経営の本質を竹川理事長より学びました。

そして忘れもしない平成23年3月11日。東日本大震災という全く先が読めぬ状況の下で本部職員が同じ気持ちで仲間の安否を案じ、仲間と共に復興のサポートを実行しました。それごとく自然とあたかも当たり前であるかのように。これは会社としてどこへ向かうのか、どうあるべきなのか、何をすべきなのかという健育会グループのMVVという血が60年という伝統の中で生まれ、そして私たち職員の中に流れていったからだと思います。

夢や希望を持ち共に同じ価値観や誇りを持って働いていくこと。正にVision & Work Together! という思いを次の10年20年へと伝えていかねばならないと考えています。

職員ひとりひとりと共にこのグループで働いていることに誇りと喜びを持ち、日本にとどまらず世界の医療と介護に貢献すべく微力ではありますが尽力していきたいと思っています。



田中 誠一

ヘルスケアシステムズ
部長

私たちの Vision &



ライフケアガーデン熱川
ご利用者さんと信頼関係を築いていって、本当の家族のように接したいと思っています。



ケアセンターけやき
ケアマネジャー、認定介護士をこの施設で目指してまいります!



熱川温泉病院
日本一ですね! 全国からここへ患者さんや働く人が集まってくるような。

ケアポート板橋
介護福祉士になりたいです。合格したら、また新しい目標ができると思います。



西伊豆病院
「目の前の事に全力を尽くす」「学ぶこと」この姿勢につきます!



竹川病院
地域の人も関わって、いろんな分野で動けるようになりたいと思っています。



花川病院
トータルケアという観点で全員がスペシャリストになっていきたいです。



ライフケアガーデン熱川
「寝たきりゼロ」を目指して職員一同頑張っています!



花川病院

ケアポート板橋
ご利用者様のその人らしさを引き出し、生活に寄り添えるような、そんな存在になれればいいなと思っています。



ケアセンターけやき
快適な一日を過ごしていただける、この地域で一番の介護施設を目指します。



いわき湯本病院
今は患者さんと向き合うことで精一杯ですが、これからは後輩の育成などにも貢献していきたいと思っています。



いわき湯本病院
出来る限り、長くここに努めてさせていただきたいと思っています。



しおん・ひまわり在宅事業部

Work Together! みなさんの目標や夢を語っていただきました。

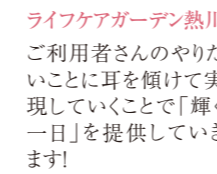
花川病院
地域の皆さんにいろいろな情報を発信していきたいようにしていきたいと思っています。



竹川病院



石巻港湾病院
多くのスタッフと共に成長してこの病院を盛り上げていきたいと思っています。



ライフケアガーデン熱川
ご利用者さんのやりたいことに耳を傾けて実現していくことで「輝く一日」を提供していきます!



竹川病院
一人一人が輝いて、光り輝く民間病院になります。



ケアセンターけやき
利用者がこの施設で、自分らしく生きていけるようにしていきたいと思っています。



西伊豆病院
事務の中でもプロフェッショナルを作っていくなど、これから仕掛けをしていきます。



いわき湯本病院
在宅にもっと力を入れて、あそこはいい病院だねって知り合いにも言ってもらえるような病院を目指したいです。



ケアポート板橋
素晴らしい仕事なので、一緒に頑張っていける仲間を増やしていきたいと思っています。



熱川温泉病院
患者さんからの笑顔からはじまり、笑顔がどんどん広がっていくことが私のミッションです。



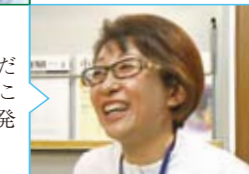
石巻港湾病院
この病院の実績も知名度も上げていきたいと思っています。



ケアポート板橋
素晴らしい仕事なので、一緒に頑張っていける仲間を増やしていきたいと思っています。



西伊豆病院
ここで働かせていただいて感謝しています。これからもここで力を発揮していきたいです。



竹川病院
スタッフのみんなが話しやすい雰囲気をつくっていききたいと思っています。



ケアポート板橋
ご利用者様がその人らしい生活を送れるようにマネジメントしていくことが、自分にとってのMVVです。

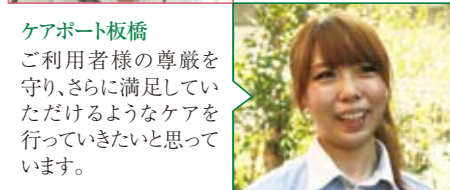


いわき湯本病院

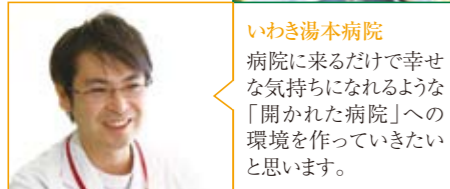
私たちの Vision &



ライフケアガーデン熱川
「輝きの日」が提供できるような施設を目指していきます。



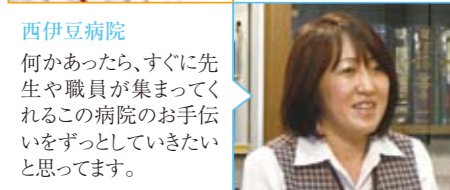
ケアポート板橋
ご利用者の尊厳を守り、さらに満足していただけるようなケアを行っていきたく思います。



いわき湯本病院
病院に来るだけで幸せな気持ちになれるような「開かれた病院」への環境を作っていきたいと思っています。



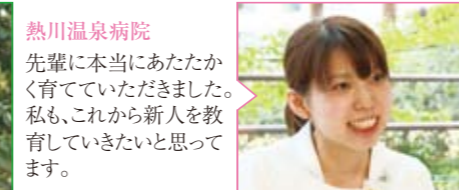
ケアポート板橋



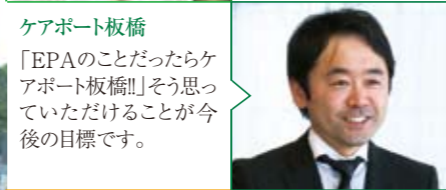
西伊豆病院
何かあったら、すぐに先生や職員が集まってくれるこの病院のお手伝いをずっとしていきたいと思っています。



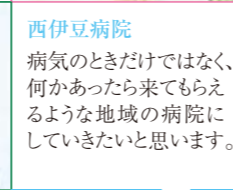
竹川病院
患者さんの代弁者として病院内で調整していきます!



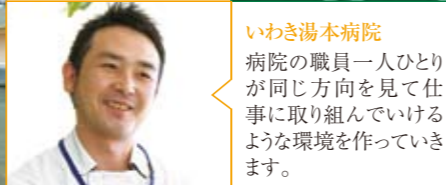
熱川温泉病院
先輩に本当にあたたく育てていただきました。私も、これから新人を教育していきたいと思っています。



ケアポート板橋
「EPAのことだったらケアポート板橋!!」そう思っただけのことが今後の目標です。



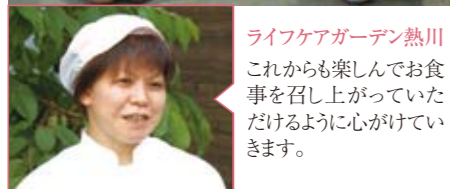
西伊豆病院
病気のときだけではなく、何かあったら来てもらえるような地域の病院にしていきたいと思っています。



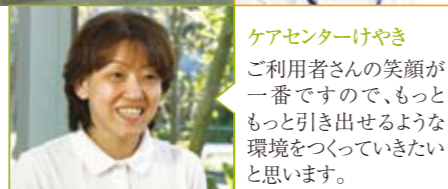
いわき湯本病院
病院の職員一人ひとりが同じ方向を見て仕事に取り組んでいけるような環境を作っていきます。



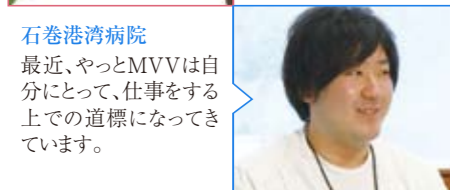
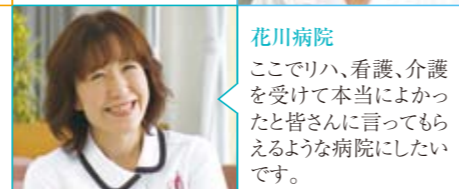
花川病院
ここでリハ、看護、介護を受けて本当によかったと皆さんに言ってもらえるような病院にしたいです。



ライフケアガーデン熱川
これからも楽しんでお食事を召し上がっていただけるように心がけていきます。



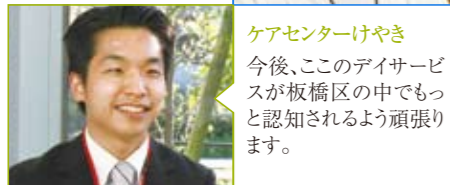
ケアセンターけやき
ご利用者の笑顔が一番ですので、もっともっと引き出せるような環境をつくっていきたく思います。



石巻港湾病院
最近、やっとMVVは自分にとって、仕事をする上での道標になってきています。



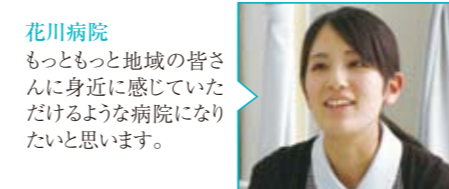
ライフケアガーデン湘南



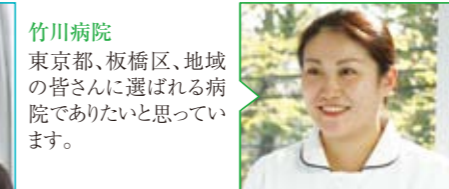
ケアセンターけやき
今後、このデイサービスが板橋区の中でもっと認知されるよう頑張ります。

Work Together!

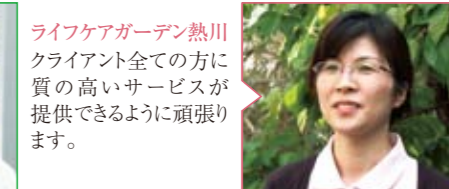
みなさんの目標や夢を語っていただきました。



花川病院
もっともっと地域の皆さんに身近に感じていただけるような病院になりたいと思います。



竹川病院
東京都、板橋区、地域の皆さんに選ばれる病院でありたいと思っています。



ライフケアガーデン熱川
クライアント全ての方に質の高いサービスが提供できるように頑張ります。



ケアポート板橋
今後も高齢者の方と接する仕事をしていきたい。ご利用者の家族や職員にもハッピーになってもらいたいですね。



石巻港湾病院
患者さん中心の看護と介護の質をスタッフ一人一人が上げていきたいです。



いわき湯本病院
外來の接遇のレベルをもっと上げていきたいと思っています。



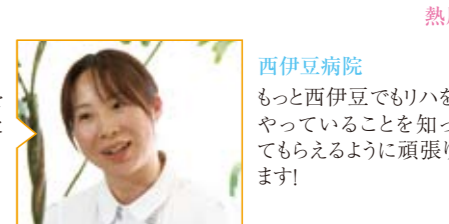
熱川温泉病院



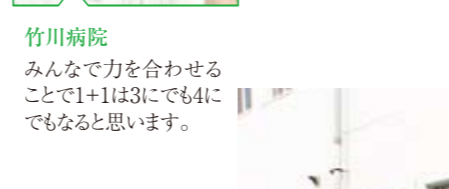
ケアセンターけやき
地域の方々に受け入れられていただけでしたが、すぐモチベーションになります。



いわき湯本病院
外來の接遇のレベルをもっと上げていきたいと思っています。



西伊豆病院
もっと西伊豆でもリハをやっていることを知ってもらえるように頑張ります!



竹川病院
みんなで力を合わせることで1+1は3!にでも4!にでもなると思っています。



花川病院
ここでリハ、看護、介護を受けて本当によかったと皆さんに言ってもらえるような病院にしたいです。



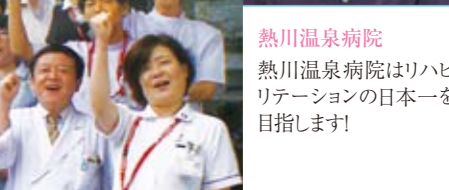
熱川温泉病院
熱川温泉病院はリハビリテーションの日本一を目指します!



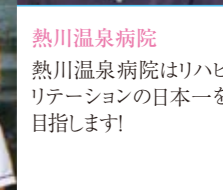
熱川温泉病院
皆さんに感謝を持って帰ってもらえるような病院にしたいです。



ライフケアガーデン熱川
「輝きの日」が提供できるような施設を目指していきます。



ケアポート板橋
ご利用者の尊厳を守り、さらに満足していただけるようなケアを行っていきたく思います。



いわき湯本病院
病院の職員一人ひとりが同じ方向を見て仕事に取り組んでいけるような環境を作っていきます。



石川島記念病院